

## トランポリン審判本部からの情報 2026年5月版

2026年2月に発行されましたFIG体操競技規則(Technical Regulation 2026) および4月に発行されましたNewsletter #32のうち、採点規則に関わる内容をまとめましたのでご確認ください。

Technical Regulations 2026 Ver.3.0 (差分)

[https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en\\_1.1%20-%20Technical%20Regulations%202026%20\(Mark-up\).pdf](https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en_1.1%20-%20Technical%20Regulations%202026%20(Mark-up).pdf)

Newsletter No.32 (以下 NL32)

[https://www.fig-docs.com/website/newsletters/TRA/2026/TRA\\_NSL\\_32\\_en.pdf](https://www.fig-docs.com/website/newsletters/TRA/2026/TRA_NSL_32_en.pdf)

### **FIG 体操競技規則 2026**

下記に記載のとおり、世界ジュニア選手権および世界年齢別大会のタイ・ブレイクは、17-21歳部門も含め、第2演技にのみ適用されます。また、情報連絡2025年12月版でお伝えしたとおり、世界ジュニア選手権決勝および世界年齢別大会の決勝においては、タイ・ブレイク規則は適用されません。

#### 第4項 トランポリン競技特別規則

##### Art.4.4 タイ・ブレイク規則

##### Art.4.4.1 トランポリン 個人

世界ジュニア選手権および世界年齢別大会~~-(17-21歳部門を除く)-~~では、タイ・ブレイク規則は自由演技(第2演技)にのみ適用される。

### **Newsletter No.32 内容 (抜粋)**

#### 2) トランポリン個人およびシンクロナイズド競技における移動減点の変更について

変更点:

- 移動減点(H得点)の見直しを行います。新しい基準では大きな移動時の減点幅を拡大し、小過失、中過失、大過失の区分をより明確に設定しています。H得点により明確な差をつけることで、実施演技をより正確に区別することを目的としています。

2026年10月31日まで有効

0.3	0.2		0.3	
0.2	0.1	0.0	0.1	0.2
0.3	0.2		0.3	

2026年11月1日から有効

-0.50	-0.30		-0.50	
-0.30	0.1	0.0	0.1	-0.30
-0.50	-0.30		-0.50	

変更の適用開始日：

- 改定された移動減点は2026年11月1日より有効とします。従って2026年のワールドカップシリーズでは適用されません。中国・南京で開催される2026年世界選手権、世界ジュニア選手権、および世界年齢別大会より導入されます。

※審判本部注：国内でも2026年11月1日より変更を適用します。従いまして、第63回全日本選手権は本ルールでの実施となります。

変更の理由：

- 選手の安全と福祉：ベッドを大きく移動すると怪我のリスクが高まります。大きな移動に伴う減点をより重くすることで、安全な技術と着床を促進することを狙いとします。
- 公平な採点：改定された採点基準により、H得点がより効果的に分散され、点数の集中が緩和し、実施演技の評価に有意義な差が明確に現れます。H得点は、従来の7.0～10.0の範囲から、5.0～10.0の範囲となります。
- 審判・コーチへの明確化：新しい基準はより明確で、判定の一貫性を改善し、コーチが修正点をより正確に特定する助けとなります。

#### 4) 2029 ワールドゲームズ 出場権獲得の道

2025年 中国・成都大会に続き、次回は2029年 ドイツ・カールスルーエでワールドゲームズが開催されます。国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) は、今後数ヶ月以内に競技プログラムを公表する予定です。

2029年ワールドゲームズへの出場権は、2028年ワールドカップシリーズを通じて決定されます。体操競技規則(Technical Regulations)に記載されたとおり、これは前回の方式からの変更となります。具体的な出場権に関する詳細は、2028年シーズンに先立ち公表される予定です。

これらの変更は、審判員、コーチ、主催者、そして選手にとって調整が必要となることを認識しております。WGYM T&T 技術委員会は、主要大会への明確かつ一貫した参加ルートを確保しつつ、すべての選手の安全と公平な扱いを保証することに引き続き取り組んでいきます。

## 6) Q&A

(1) [TRA/TUM/DMT] 着地時の安定性の定義についてはいまだに疑問があり、これが演技減点のばらつきの原因となります。

安定性の概念がしばしば曖昧になりがちな 3 つの事例を挙げます：

a) 選手は一步後ろに下がり、その姿勢を 3 秒間保ち、両足を正しく揃える動きと同時に審判の方を向いた。

TC 回答：TRA 0.2 減点、TUM/DMT 0.3 減点を与える。

b) 選手は一步後ろに下がり、その姿勢を 1~2 秒間保ち、両足を正しく揃え、さらに 1~2 秒間待ってから、審判の方を向いた。

TC 回答：一步移動したことに對して 0.1 の減点を与える。両足を正しい位置に戻したことに對する減点は無し。

c) 選手は 3 秒間スクワットの姿勢を保ち (0.1 点減点)、直立し、その動きのまま審判の方を向く。

TC 回答：スクワット姿勢を保ったことに對する 0.1 の減点のみ与える。

(2) [TUM] 選手が肩の高さ (またはそれより下) で、捻りを伴わない後方宙返りを行った。CJP はこれをウィップバック (テンポ宙返り) とみなした。この場合、宙返りで終わらなかったことに對するペナルティ 2.0 を適用すべきか (採点規則 TUM 15.5) ?

TC 回答：ペナルティ無し。最終種目で行われた後方の種目は、審判によってウィップバックと判定された場合でも後方宙返りと見なされる。

(3) [TRA/TUM/DMT] 採点規則では、着地マットやトランポリンベッドに手で触れた場合、0.5 点の減点と定められている。採点規則 TUM 19.2.2.2 では、着地後に 両足がランディングゾーン/エリアにある状態でトラックやランディングゾーンに片手または両手が触れた場合にこの減点を与えられるべきと記載されています。TRA/DMT については、両足がランディングゾーン/トランポリンベッド内にあるというこの記述は記載されていない。

a) ランディングゾーン/エリア内に両足がある という規則は、TRA/DMT にも適用されますか？

TC 回答：その通りです。

b) 以前の採点規則では、転倒を避けるために手で自身の体重を支えた場合、その都度 1.0 の減点となる記載がありましたが、最新の採点規則ではこの規定が削除されたため、この場合の減点は 0.5 になると理解しています。しかし、選手が片足を床から浮かせた場合はどうなるでしょうか？ 私の理解では、もし手で支えている間に両足が浮いた場合は 1.0 の減点であるべきですが、片足が浮いた場合の採点規則が不明確です。

TC 回答：常に片方の足が着地面に接している限り、着地減点は 0.5 点となる。

以上